

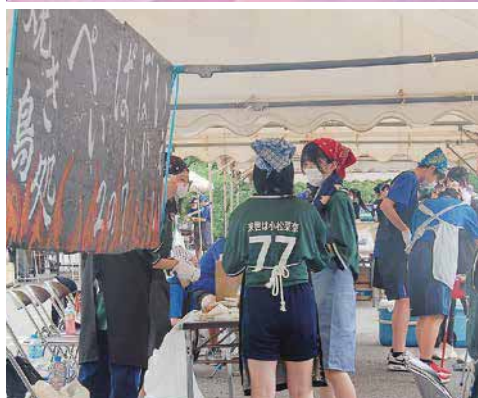


致道館高等学校 同窓会報

題字：書道部

第 2 号

発行 致道館高等学校同窓会
〒997-0037 山形県鶴岡市若葉町26-31
山形県立致道館高等学校内
電話 (0235) 22-0061(代)
印刷 鶴岡印刷株式会社
2025年
令和7年11月10日発行



同窓会報のテーマは『繋ぐ』 将来同窓会員となる在校生が表紙を企画しました。

写真：報道部／致道祭7/17～19

令和8年度 総会・親睦会のご案内

※申込締め切り

令和8年6月19日(金)

日時 令和8年7月4日(土)

総会 15:00／親睦会 16:00

毎年7月
第一土曜日開催

場所 グランド エル・サン

〒997-0801 山形県鶴岡市東原町17-7 ☎0235-24-4633

会費 6,000円 (当日会場で申し受けます。)

〈実行委員〉S62卒業生、H9卒業生

参加申し込み受付中

お電話、ホームページまたは
公式LINEからお申し込みください。

☎0235-22-0061 (事務室 本間まで)



同窓会
ホームページ

公式LINE



※お早めにお申し込みいただいた方へは、4月頃に確認の
ご案内を申し上げます。



同窓会長挨拶

会長 齋藤 正志（南S44）

日頃より致道館高等学校同窓会に對しましては、多大なるご理解とご協力を頂き深謝申し上げます。

それぞれ一三五年、一二六年の歴史と伝統を誇る鶴岡南高等学校と鶴岡北高等学校の歴史的大統合から早や一年半が経ちました。致道館中学校・高等学校に生まれ変わりましたが、母校は二年目を迎え、第二代齋藤祐一新校長のもと、四月より新体制で学校運営がなされています。

学校の統合と同時にスタートした新同窓会もスムーズな統合が進んでおり、お陰様と感謝申し上げます。

新同窓会においては、統合後課題の検討を重ね、令和六年七月の第一回総会で新同窓会の会則の制定、運営方針、事業計画・予算についてご承認いただきましたが、令和七年七月五日の第二回総会において令和七年度の活動方針などが承認され、その後盛大に親睦会が開催されました。

新校の基本理念は、自主自立、新しい価値の創造、社会的使命の遂行にあり、まさに藩校致道館から鶴岡南高校、鶴岡北高校へ受け継がれてきた伝統であります。その理念に従い学校運営は順調に進められていると感じております。同窓会の方も結束して新校を応援し

て行かねばなりません。同窓会の皆様からのご理解とご協力をお願い申し上げます。

なお、昨年十一月発行の同窓会報でお知らせしているところではありますが、同窓会の統合により同一家庭に複数会報が配布されるケースが増えていること、各世代で広くネット環境が整い同窓会ホームページへのアクセスも身近になりつつあることなどを踏まえ、試行として今号については、過年度を含め維持会費・ご寄付をいただいた方にお届することとし、発行経費を抑制し、同窓会の安定的な運営が図られるよう努めておりますが、皆様のご意見をお寄せ下さるようお願いいたします。

東京はじめ各地の同窓会も体制が整って来ております。私は、旧鶴翔同窓会長として十年、その後足かけ二年致道館高校同窓会会長を務めさせて頂いておりますが、新体制が確立されつつありますので、今年度二年目を最後として、次世代会長にバトンタッチして参りたいと思っております。

最後になりますが、致道館高等学校同窓会の発展と会員の皆様のご活躍とご健勝をお祈り致しまして、会長挨拶とさせていただきます。



校長挨拶

校長 齋藤 祐一（南S60）

今年度、縁あって校長を拝命し、母校の流れをくむ本校で学校運営の任を担うこととなり、その重責に身の引き締まる思いであります。今後は学校の土台づくりに邁進してまいりますので、同窓会の皆様のご指導ご鞭撻をどうぞよろしくお願い申し上げます。

本校の近況について少しご紹介いたします。

致道館中学校は、今年度九十九名の新入生を迎え、一・二学年の合計一九八名の生徒が、旧鶴岡北高等学校の校舎を活用しながら元気に学校生活を送っています。生徒たちの様子を見ていると闊達で自主性に優れ、どんな取り組みに対しても真剣に、また、積極的に臨む姿勢に大変感心させられました。

五月末には、二年生が二泊三日で関東方面での研修旅行を初めて実施しました。中学校では教育計画の中で、実は三年生でもう一回、研修旅行を行うこととしています。これは、中高一貫の利点を生かした取り組みのひとつで、中学時代に視野を広げ、時間をかけて自分のキャリアをじっくり考えさせることを目的としています。

致道館高等学校は、今春、旧鶴岡南・旧鶴岡北に在籍していた生徒が、致道

館高等学校の初めての卒業生として学び舎を巣立った後、二七六名の新入生を迎え、合計八二八名という県内公立高等学校では最大規模の生徒を有する学校となりました。

高校では校内外での様々な行事や取り組みは「生徒が主体となって計画し実施する」ことを基本としています。四月に姉妹校である台北市立建国高級中学の生徒が来日した際は、主に二年次生が中心となって催しを企画し、交流を深めることができました。部活動やスーパースাইエンスハイスchoolの活動等、生徒の多岐にわたる活動の様子については、本会報の後述をご参照ください。

中高とも文武両面において実力を備え活躍が期待される生徒達です。一人一人の可能性を引き出し個性が輝くよう、職員一同、全力で支援してまいります。地域の皆様の期待に応えることができる学校としてその役目を果たしていく所存ですので、今後とも同窓会の皆様のご支援ご協力をどうぞよろしくお願い申し上げます。

皆様のご健勝と同窓会の益々のご発展を祈念申し上げ、挨拶とさせていただきます。

東京鶴翔同窓会

R6 11.9±

会 場 アートホテル日暮里 出席者 241 名

致道館高等学校同窓会会長齋藤正志様、同校校長遠田達浩様など多数の来賓の方々のご列席を賜り、同窓生、来賓、招待者（非会員）、如松一般参加者の方々を含め、総勢 241 名の参加を頂き、第 95 回東京鶴翔同窓会総会・懇親会を開催しました。

総会の冒頭、坂田会長より来年の第 55 回が東京鶴翔同窓会としては最後の総会・親睦会となり、翌年以降は致道館高校の同窓会となることをご報告されました。

今年は、致道館高校音楽部の皆さんによる致道館高校の校歌をビデオで鑑賞した後、親睦会がスタートし、郷土のお酒やワイン、芋煮などの美味しい料理を頂きながらじゃんけん & 鶴南クイズ大会などを行う頃には、参加者の方々もすっかり繋がりが一体となり、交流を深め合いました。そして、応援団による恒例の鶴の舞からの最後の鶴南校歌斉唱の時には、最高の盛り上がりを見せました。最後に、来年最後の東京鶴翔同窓会の実行委員の方々の紹介をして会を閉じました。



致道館高等学校

各地の同窓会

致道館
高等学校

北海道同窓会

R7 7.5±

会 場 中村屋旅館 出席者 10 名

今回は久しぶりに会長の奥様（南S36）芳賀純様、（南S56）遠見新一、深澤治稔両名にご参加いただき少し若返った気分と同窓会を開くことができました。

はじめに（南S34）芳賀会長より植物に興味を持った南高時代のことを織り交ぜたご挨拶を頂きました。次に幹事が前回の決算などの報告をして、了承されております。又、（南S32）魚住相談役からは挨拶の中で平均寿命 100 年に近づいて来ている現在の状況などの話があり、続いて魚住さんの乾杯のご発声で懇親会に入り割烹旅館の料理をいただきながら旧交を温めることができました。途中（南S32）山田顧問より CD を通して致道館高等学校校歌の披露があり歴史の脈々を感じられる重厚な響きに一同深く感銘を受けたところです。又、出席者からはそれぞれの近況や在校時の思い出などを披露してもらい、最後に（南S34）渡辺氏から会を閉めていただき、恒例の「山河の姿…」を高らかに歌い上げて再会を期して散会となりました。



致道館 高等学校 新潟同窓会

R6 11.9±

会 場 アートホテル新潟駅前 出席者 7 名

致道館高校梅津教頭先生、同窓会本部佐藤事務局長にお越しいただき、大先輩の皆様の懐かしいお話しや、現状の教育現場の話題に花が咲いて大変有意義な時間となりました。

新潟県内には、旧鶴翔同窓会・旧如松同窓会合わせて約 500 名の会員がいますが、全員にお知らせするのが難しい状況にあります。

この記事をご覧になった皆様、是非ともご参加をお待ちしております。参加ご希望の方は同窓会本部にご連絡ください。



致道館
高等学校

仙台同窓会 R7 8.30[±]

会 場 江陽グランドホテル 出席者 22 名

第2回仙台同窓会を本部同窓会会長の齋藤正志様、事務局長の佐藤守様、致道館高等学校校長の齋藤祐一様にご臨席いただき、開催しました。講演会では中目千之様（前山形県医師会会長、中目医院（鶴岡）前医院長）に「長生きのための生活習慣」の演題でご講演をいただきました。

懇親会では、参加者から近況、鶴岡や高校時代の思い出等のスピーチがあり、大いに盛り上がり、楽しいひと時を過ごしました。

在仙の方のご参加をお待ちしております。



東京如松会

R7 9.28^日

会 場 北とぴあレストラン「QUAD17」
出席者 会員 79 名・来賓 3 名

「第71回総会・閉会の集い」を開催。総会では、東京如松会を閉会する件・東京致道館同窓会を設立する件を承認。懇親会では「如松同窓会東京支部・東京如松会の73年の歩み」をまとめた資料を作成し参加者に配布。スライドショーも行い、過去の総会の様子を振り返り、参加者の方々にコメントをいただき大いに盛り上がった。閉会する寂しさの声もある中で、新同窓会への期待も聞かれ「気品澁澁」の精神で凛として進みましょう、と大いに盛り上がり和やかな雰囲気集いだった。



致道館
高等学校

山形同窓会

R7 9.10^水

会 場 山形グランドホテル 出席者 63 名

致道館高等学校同窓会副会長田中芳昭様、同校校長齋藤祐一様にご出席いただき、名称を「致道館高等学校山形同窓会」に変更後第1回目となる総会・懇親会を開催しました。役員改選で新会長に鶴南昭和49年卒佐藤政士さんが選任されました。懇親会では記念のアトラクションを企画し、鶴岡北高を平成22年に卒業した歌手「羽山みずき」さんを特別ゲストにお迎えし、北高校歌や庄内弁を交えた歌とトークで花を添えていただき、時間が過ぎるのを惜しみながら会を閉じました。



（写真は新会長と羽山みずきさんの祝樽クラッカーの場面）

詳細
次号

致道館高等学校 新潟同窓会 R7 10.26^日

会場：新潟東映ホテル

東京鶴翔同窓会（ファイナル） R7 11.8[±]

会場：アートホテル日暮里ラングウッド 2 階

山形県立致道館高等学校同窓会

ホームページ <https://www.chidokan.jp/>



公式 LINE ▶



母校や同窓会の最新情報を配信します。
友だち追加をお願いします。

南 昭和41年卒 喜寿同期会



鶴岡南高等学校「昭和四十一年卒・喜寿同期会」が令和六年十月七日・八日に湯野浜温泉・竹屋ホテルで開催されました。大雨による羽越本線の不通は開催前日になって「いなほが開通」という気をもむ中、恩師・新橋武先生と同期の仲間は七十七名。喜寿にふさわしい人数でした。

阿部博行実行委員長は挨拶で「入学した昭和三十八年は「三八豪雪」の年で体育館がつぶれて体育の授業ができなかった」、そして、「十二月には佐藤鉄治郎校長先生が自殺するという非常に衝撃的な出来事がありました」、さらに「昭和二十二年度生まれの我々は人も多く競争も激しい団塊の世代を生き抜いて、今日こうしてお集まりいただいたことに感謝します」と話しました。

新橋武先生は杖をおつきになっていたものの、かくしゃくたる声で「私は今年九十一歳になりました。(一組から六組まで、当時の先生のお名前を順に上げられ)皆さんお亡くなりになり、私だけが生かされています」と笑いを誘いましたが、「淋しい」と本音をもらされました。南高校の旧校歌の「山河の姿」「鳳領月峯」を想いだしては口ずさみ、「いい歌詞ですね」と懐かしんでいました。

久しぶりの再会で賑わう中、仲間による尺八演奏と新日本舞踊はさらに弾みをつけ、笑いが絶えない喜寿同期会でした。

〈平山静夫〉

北 昭和50年卒 古希の会



我学年は「輝」をテーマとして集まり、今回は「輝きを心に」のもと、八月二十二日グランドエルサンにて開催されました。同期会としては五回目となります。恩師の中村泰子先生にお越しいただき一〇四名が集いました。受付では早くも「久しぶり」「元気だった?」とすぐに盛り上がり、そのまま記念撮影へ。開会とともに黙祷をささげ校歌斉唱。当時を思いながらの校歌に気持ちは高校生。実行委員長挨拶、実行委員自己紹介と続き、恩師の先生の挨拶と乾杯!!グランドエルサンの美味しい料理をいただきながら、盛り上がりつつ会場。どのテーブルも食べることで、おしゃべりの方が忙しく、会場はよりにぎやかに。そこで実行委員十五名による余興がスタート。華やかな衣装をまとったフラ「月の夜は」を踊ると、手拍子も。アンコールの声も出て、次はステップアップのパラパラ「ミッキーマウス」。古希とは思えないほどの早いテンポでのパラパラは会場が最高潮に。なかなか古希ガールズもやります。今回で同期会は終わり?と聞いていたのですが、会場のあちらこちらでは、次の喜寿の会への期待の声もでて、実行委員もその要望に応えなければと、健康でありつづけようと声かけ合い二次会へ移動していきまし。た。「我以外皆我師也」答辞の言葉を胸に。

〈大野貴恵〉

南

昭和60年卒 鶴翔92期同窓会

集う一〇五人。会場に広がる再会の輪



旧鶴岡南高等学校九十二期生は、卒業四十周年を記念して、八月十四日、グランドエル・サンにて同窓会を開催しました。

各組担任の先生六名全員がご出席なされ、卒業生九十九名と合わせ、計一〇五人が集いました。

今回の同窓会は、幹事の負担軽減を図るため、ネット、SNSを徹底的に活用した開催とし、幹事（十三名）が集まったのは、僅か二回。メール、LINE、Face book、口コミで周知し、出欠はGoogleフォームで集計しました。のべ一七五名から回答を頂き、所期の目的が達成できたものと思います。

同窓会は、三時間に及ぶ大宴会（エルサンの皆さま、ありがとうございますでした）、テーブルには席を多めに置き、ビュッフェ方式としたことから、移動はスムーズ。あちらこちらに浮かぶ泡のように小さな輪が多くでき、輪を回しながら話が弾みました。

恩師の方々から近況報告では、寄る年波に立ち向かう？御姿に勇気を頂き、致道館高校校長の齋藤祐一君から近況報告を兼ねた乾杯。締めでは、応援団長大川文幸君のリードで校歌斉唱、その後、田村裕君の呼びかけで、大川岳二君、板垣新弥君が演奏し「乾杯」を合唱し、四十年ぶりに卒業式を再現。互いの健康と活躍、再会を期して盛会のうちに終了しました。

〈永寿祥司〉



Information

～同窓会事務局より～

◇「同窓会報」は『繋ぐ』をテーマに編集し、将来同窓会員となる在校生が会報の一部を企画・作成しました。（今後も継続する予定です）

「表紙」…… 題字：書道部
写真：報道部

来年度は生徒のページを掲載予定です

◆今年度から同窓会報の発送対象者が限定されます。◆

- 過去10年間に維持会費・ご寄付を頂いた方
平成27年4月1日～令和7年3月31日
- 令和2年3月卒～令和7年3月卒の卒業6年以内の方
- 同一家庭（電話番号）には各出身校の代表者にのみお届けとなります。
（北高2人、南高2人、致道館1人の場合、3部配送されます）

◇維持会費の納入方法は下記のいずれかよりお選びください。

- ①事務局に持参 ②クレジット ③スマホアプリ
- ④振り込み ⇒ 郵便局またはコンビニ
- 注）郵便局は維持会費・ご寄付も受付となります。
- 注）コンビニは3口（3,000円）のみ受付となります。

◇「同窓会報」・「総会資料」はHPに掲載しています。

◇住所・氏名等、変更された場合は同窓会事務局にお知らせください。



◀同窓会HP

維持会費は
スマホ・パソコンより
納入できます。

未来の会員のため、なにとぞ維持会費の納入にご協力をお願い申し上げます。

母校だより

令和6年度の卒業生
令和7年度の異動

310名

〔転出〕

遠田達浩

(校長・数学・庄内総合高校定時制)

大瀧 哲 (事務部長・知事部局)

梅津直志(教頭・数学・庄内農業高校)

青山 武 (理科・退職)

松本正和 (英語・退職)

黒田陽春 (国語・致道館中学校)

鈴木重考 (地歴・酒田光陵高校)

池田裕子 (公民・酒田東高校)

西塚寿男 (数学・県教育センター)

豊田彩子 (理科・県教育センター)

清川智美 (英語・鶴岡中央高校)

齋藤静子 (家庭科・鶴岡工業高校)

藤井健司 (数学・退職)

佐藤 忠 (常勤講師・国語・鶴岡中央高校)

高橋直子 (常勤講師・国語・鶴岡中央高校)

松森 昌 (常勤講師・地歴・退職)

若嶋 孝 (常勤講師・保体・遊佐高校)

佐直多笑 (常勤講師・保体・新庄南高校)

直井千佳子 (常勤講師・英語・酒田西高校)

阿部貴和子 (養護助教諭・庄内総合高校全日制)

前田浩美 (非常勤講師・理科・退職)

飯田浩基 (主任主査・退職)

〔転入〕

齋藤祐一

(校長・理科・

県立博物館)

西塔晋司

(事務部長・

庄内総合支庁保健企画課)

池田孝之

(教頭・地歴・

鶴岡中央高校)



主な大学合格者数 (現役のみ・延べ人数)

国公立大学	北海道	2	私立大学	早稲田	3
	弘前	6		慶應義塾	1
	岩手	4		上智	1
	東北	7		東京理科	2
	宮城教育	2		立教	5
	秋田	11		明治	3
	山形	22		法政	8
	福島	2		中央	3
	茨城	3		同志社	1
	筑波	2		東北学院	21
	宇都宮	3		東北福祉	20
	群馬	2		東北芸工	9
	埼玉	7		東北公益文科	7
	千葉	2		新潟医療福祉	27
	東京外大	1		その他	227
	東京学芸	2	私立大計		338
	東京農工	1			
	一橋	1	進路状況 (実人数)		
	横浜国立	3			
	上越教育	1			
	新潟	27			
	富山	3			
	金沢	5			
	信州	1			
	静岡岡	1			
	京都	2			
	神戸	1			
	九州	1			
	山形県立保健医療	8			
	東京都立	1			
	横浜市立	2			
	新潟県立	9			
	その他	30			
	国公立大計	175			

進路状況

卒業生数 310人
合格者数 国公立大175人、私立大33人、文部科学省所管大学2人、

短期大学9人、専修・各種学校28人、公務員3人

致道館高校1期生である今春の卒業生の進路志望は多岐にわたったが、それぞれの目標に向けて粘り強く努力を

加藤美奈子 (国語・酒田西高校)
五十嵐遙佳 (国語・小国高校)
齋藤 仁 (理科・酒田光陵高校)
井本吉彦 (保体・庄内総合高校全日制)
ウィースト里和子 (英語・新採)
進藤美沙 (英語・鶴岡工業高校)
白崎絵理 (養護助教諭・新庄北高校定時制)
佐藤孝敏 (常勤講師・国語・遊佐高校)
河合 啓 (常勤講師・地歴)

佐々木沙也加 (常勤講師・公民・鶴岡中央高校)
吉泉亜美 (常勤講師・数学)
梶原空斗 (常勤講師・保体・酒田東高校)
日向稔也 (非常勤講師・公民)
青山 武 (非常勤講師・理科)
佐藤直子 (非常勤講師・家庭科)
佐藤雅之 (主任主査・酒田光陵高校)

各種大会記録

重ね、果敢に受験に挑んだ。国公立大学にはのべ175人が合格した。在籍数に対する合格率は約56%にあたる。

(8月28日現在 東北大会以上)

難関国公立大への合格状況は、京都

大2人、一橋大1人、東北大7人、北海道大2人、筑波大2人、東京外国語大1人、神戸大1人、九州大1人であった。国公立大医学部医学科は東北大1人、山形大1人、弘前大1人、私立大医学部医学科はのべ4人が合格した。いずれも基礎徹底に努め、信念を持ってひたむきに学習し続けた結果である。合格者が多かった国公立大学は、新潟大27人、山形大22人、秋田大11人、新潟県立大9人、山形県立保健医療大8人、埼玉大7人だった。ほかには近隣の大学や関東圏の大学に加えて、関西や九州の国公立大学への進学も見られた。

私立大は、早稲田大3人、慶應義塾大1人、上智大1人、中央大3人、東京理科大2人、法政大8人、明治大3人、立教大5人、同志社大1人など難関大にも数多く合格した。合格者数が多かった大学は、新潟医療福祉大27人、東北学院大21人、東北福祉大20人などであった。

短期大学は山形県立米沢短大3人、専門学校は鶴岡市立看護専門学校13人などが合格。看護医療系志望者が多かった。就職志望者はすべて公務員志望で、きめ細やかな指導のもと、鶴岡市役所に3名全員が合格した。

キャリア支援課長 真嶋亮子

◆陸上競技部

〈全国高等学校総合体育大会〉

女子100m 三浦 采桜 出場

〈東北高等学校陸上競技大会〉

女子100m 5位入賞 三浦 采桜

女子400m 7位入賞 今田 和来

女子200m 準決勝敗退 三浦 采桜

男子棒高跳 松山 由依 出場

女子ハンマー投 本間 有美 出場

女子走高跳 阿部 歩 出場

3000m 鈴木 梓紗 出場

〈東北総合スポーツ大会〉

4×100mリレー 1位 三浦 采桜

(選抜メンバー)

◆テニス部

〈東北高等学校テニス選手権大会〉

女子シングルス 佐藤 澄 出場

〈東北ジュニアテニス選手権大会〉

18歳以下 男子シングルス

池田 陽貴 出場

18歳以下 男子ダブルス

ベスト8 池田 陽貴

(ペアは山形南高)

◆アーチエリー

〈全国高等学校総合体育大会〉

男子団体 出場

女子団体 決勝トーナメントに進出し、ベスト16(第9位)

〈東北高等学校アーチエリー選手権大会〉

男子個人 3位 門脇 優安

男子個人 8位 五十嵐 大翔

男子団体 6位

女子個人 5位 木村 日子

女子団体 3位

〈東北総合スポーツ大会〉

少年男子

5位 阿部 凌成、五十嵐 悠太

少年女子

優勝 富樫 真花、亀井 心香花

国民スポーツ大会出場権獲得

◆バドミントン部

〈全国高等学校総合体育大会〉

池田 花保 出場

〈東北高等学校バドミントン選手権大会〉

女子シングルス 池田 花保 出場

女子団体

五十嵐 花梨、小林 愛海、池田 花保、小野 寺日穂、金丸 真緒、青柳 利海、菅原 藍夏、鍋島 琉月 出場

◆弓道部

〈全国高等学校総合体育大会〉

男子団体

菅原 蒼矢、富樫 太智、本間 耀、富樫 央、佐藤 裕紀、櫛引 識氣 出場

女子団体

渡部 香子、渋谷 優月、鈴木 美空、須藤 華音、五十嵐 芽愛、三浦 佑菜 出場

〈東北高等学校弓道選手権大会〉

女子団体 60射34中 出場

(第4位相当)

男子団体 60射31中 出場

男子個人 本間 耀 予選8射6中

(上位9人)

〈東北総合スポーツ大会〉

少年男子 総合6位 佐藤 裕紀

少年女子 総合3位 渋谷 優月

◆水泳

〈全国高等学校総合体育大会〉

男子200M自由形 佐藤 壮一郎 出場

〈東北高等学校選手権大会〉

女子100M平泳ぎ 富樫 佳里奈 出場

女子100M平泳ぎ 五十嵐 清花 出場

男子200M平泳ぎ 阿蘇 湊音 出場

女子200M平泳ぎ 富樫 佳里奈 出場

女子50M自由形 五十嵐 清花 出場

男子50M自由形 池田 佑也 出場

男子100M自由形 池田 佑也 出場

男子200M自由形 本間 瑛翔 出場

男子400Mフリーリレー

佐藤 壮一郎、池田 佑也、本間 瑛翔、阿蘇 湊音 出場

男子200M自由形 第1位 佐藤 壮一郎

男子100M自由形 第7位 佐藤 壮一郎

男子100M平泳ぎ 第9位 阿蘇 湊音

◆科学部

〈全国高等学校総合文化祭自然科学部門〉

五十嵐 海愛リアム、加藤 翼、正田 幸太郎

◆音楽部

〈第92回NHK全国学校音楽コンクール東北ブロックコンクール〉

銅賞

〈第77回全日本合唱コンクール東北支部大会〉

銀賞

◆設置外活動

〈全国高等学校総合文化祭弁論部門〉

早川 陽斐

◆SSH

〈R7SSH生徒研究発表会〉

萩原 優、松浦 蒼依

誠におめでとうございます

叙勲・表彰

令和6年10月1日～令和7年9月10日

(敬称略)

佐藤 慶子	南S29	令和6年 高齢者叙勲	瑞宝双光章 (地方自治功労、学校保健功労)
齋藤 隆	北校長	令和6年 秋叙勲	瑞宝小綬章 (スポーツ振興功労、教育功労)
田中 芳昭	南S46・南校長	令和6年 秋叙勲	瑞宝小綬章 (教育功労)
齋藤 久樹	南S35	令和6年 秋叙勲	瑞宝双光章 (学校保健功労)
奥村 淳	南S38	令和7年 春叙勲	瑞宝中綬章 (教育研究功労)
齋藤 和久	南S46	令和7年 春叙勲	瑞宝小綬章 (教育功労)
中村 俊一	南S45	令和7年 春叙勲	瑞宝双光章 (更生保護功労)
坂東 清一	南S44	令和7年 春叙勲	瑞宝双光章 (更生保護功労)
本間 立	南S47	令和7年 春叙勲	瑞宝双光章 (教育功労)

謹んでお悔やみ申し上げます

訃報

令和6年10月2日～令和7年9月10日

(敬称略)

旧職員

菊地 善教	南S46～S52、H6～H10、南校長H18～H20 (南S41卒)	平田(江口)卿子	南S33～S34 (北・南S26卒)
富沢(斎藤)栄子	南S24～S25	三井(吉統)照代	南S38～S43 (南S34卒)
菅原 稔	北S55～H7	井上 祐一	南S43～S48 (南S38卒)
鷺田 孝行	南H19～H21、北S63～H15	土田(成澤)房代	南H20～H25 (北H2卒)

同窓生

佐藤(加藤)佐喜子	北S13	菅原(土岐)千枝子	北・南S28	漆山 幸一	南S28	太田(斎藤)久	南S36
斎藤(西海)静子	北S14	長谷川(菅原)亥代恵	北・南S28	茂木(海老名)洋子	南S28	菅原 清	南S36
石川 仙子	北S15	宮口(佐藤)米子	北・南S29	工藤(佐藤)耕三	南S28	加藤 孝輝	南S36定
野崎(三浦)千恵	北S15	山濱(木村)託子	北S30	土岐 一也	南S28	阿部(金内)亘	南S37
新子(斎藤)友子	北S16	佐藤(小林)麗子	北S32	上村 貞雄	南S28定	石澤 剛	南S37
和田(門田)孝	北S16	松浦(渋谷)幸子	北S32	田辺(井上)省二	南S28定	渡部 靖	南S37
莊司(秋野)令子	北S17	斎藤 和子	北S33	小関(大江)和夫	南S29	本間 雄士	南S37
田沢(佐藤)とめ	北S17	三浦 信子	北S33	日向 和夫	南S29	佐藤 俊雄	南S38
飯井(板垣)桂	北S19	加藤(木根淵)美和	北S35	真島 吉也	南S29	土岐 寛	南S38
梅木 敏子	北S19	富樫(渡部)一子	北S37	石田(佐藤)功	南S29定	高橋 俊士	南S38
斎藤(荒井)積	北S19	五十嵐(佐々木)美和子	北S39	大谷 樹澄	南S30	若松 進	南S39定
佐藤(武藤)わか子	北S19	尾形(五十嵐)トミ子	北S40	加藤 龍介	南S30	菅原 正明	南S40
伊藤 登美	北S20	麻生(梅田)幸子	北S41	島貫 瀧雄	南S30	皆川 和中	南S40
佐谷野(館山)典子	北S20	長谷川(新野)光枝	北S41	高橋 進	南S30	氏家 昇一	南S40
淵田(大川)節子	北S20	真田(大沼)和子	北S42	石川 繁雄	南S30	大戸 眞澄	南S40
原田 としゑ	北S20	長谷川 孝子	北S43	五十嵐(高橋)敏夫	南S30定	神田 養輔	南S40
小角(富樫)百合枝	北S21	五十嵐 郁子	北S46	今野(山口)和枝	南S30定	佐藤 悦郎	南S41
滝川(石田)幸子	北S21	佐藤 弘美	北S53	古家(長谷川)二三造	南S30定	佐藤 誠	南S41
大川(富樫)徳	北S22	佐久間(高橋)志津	北S63	佐藤 徹夫	南S31	武田 徹	南S42
本田(菅沢)徳子	北S22	五十嵐 茜	北H13	佐藤 信昭	南S31	佐藤 新太郎	南S43
秋野 孝	北S23	西海 幸雄	南S16	富樫 義久	南S31	五十嵐(大滝)美昭	南S43
伊藤(菅原)文	北S23	大瀧 直之助	南S18	飯井(佐藤)秋男	南S31	五十嵐 雄幸	南S44
鹿野(石畑)睦子	北S23	菅原 弘介	南S18	武野 尚三	南S31	村岡 信廣	南S44
菅原(伊藤)銀子	北S23	八木 昭	南S21	鶴田(阿部)喜美雄	南S31	加藤 義弥	南S45
梅木(渡部)繁井	北S23	荒川 達雄	南S21	斉藤 とし子	南S31	横屋 和興	南S45
戸村 静子	北S23	植木 清哉	南S24	芳賀 惇	南S31定	長南 義春	南S46
八幡 あさみ	北S23	鈴木 滋	南S25	野口 彌	南S31定	石井 節子	南S46通
八木(村上)美穂子	北S23	田中 尹	南S25	石川 一夫	南S32	加藤(石川)明子	南S47
秋山(今野)素	北S23	本間 篤良	南S25	戸村 昌也	南S32	今野 稔	南S47定
加藤(野田)康子	北S23	石黒(井上)祐次	南S26	五十嵐(加藤)春朔	南S32	斎藤 裕	南S48
諏訪(大八木)淑子	北S25	榎本 修	南S26	石名坂 茂夫	南S32	笹原(奥泉)美栄子	南S48定
皆川(佐藤)美智	北S25	木村(後藤)咲子	南S26	森田 富	南S32	大木(森田)佳子	南S49
梅津 チエ	北・南S26	佐藤 九二男	南S26	長南 君子	南S32	佐藤 昌幸	南S53
山田(川合)弘子	北・南S26	北村 謙一	南S26定	前田 右馬之助	南S32定	神山(石黒)厚子	南S54
石田(阿部)光子	北・南S27	青木 剛	南S27	手塚 明雄	南S33	斉藤(富樫)浩美	南S54
小野寺 絹	北・南S27	石田 晋	南S27	梅木 欣一	南S33定	齋藤 調	南S55
榎本(須田)諒子	北・南S27	伊藤 正之	南S27	大川 政紀	南S34	斎藤 満智子	南S58通
加藤(渡部)冴	北・南S27	三浦 久喜	南S27	海東 宏昭	南S35	伊藤 陽子	南H6通
板垣 喜美子	北・南S28	阿部 皓一	南S28	松浦 清	南S35		
		伊藤 茂之	南S28	成澤 一男	南S36		

〈通：通信制・定：定時制〉

令和6年度 致道館高等学校同窓会 決算

一般会計

令和6年4月2日～令和7年3月31日 (単位:円)

収入の部	本年度予算額	本年度決算額	比較増減	備考
鶴翔同窓会より繰越金	4,430,107	4,430,107	0	一般会計7,958,099-5,456,000=2,502,099円、積立金会計1,928,008円
如松同窓会より設立金	5,456,000	5,456,000	0	新同窓会設立金5,000,000円、令和5年度入会金456,000円 (114名)
入会金	1,500,000	1,550,000	50,000	@5,000円×310名 (R7.3卒業生)
維持会費	4,500,000	3,731,000	▲ 769,000	@3,000円×1,246件 (ゆうちょ529, コンビニ654, クレジット58, 現金5)
寄付金	1,500,000	1,195,000	▲ 305,000	256件 (ゆうちょ214, クレジット39, 現金3)+東京南S30+南S46
会報広告料	300,000	540,000	240,000	27件20,000円
雑収入	213,893	178,383	▲ 35,510	エアコンPTA使用料、預金利息
合計	17,900,000	17,080,490	▲ 819,510	
支出の部	本年度予算額	本年度決算額	比較増減	備考
会議費	150,000	146,630	▲ 3,370	役員会・事務局会
需用費	200,000	227,383	27,383	通信費用、消耗品等
親睦会事業費	350,000	417,827	67,827	告知120千円、各期補助40千円、総会資料95千円、他持出し金
会報印刷費	1,570,000	2,037,121	467,121	31,500部×50円 → 31,200部×66円
会報発行費	4,150,000	4,250,506	100,506	30,500部×136円 → 30,000部×152円
各地同窓会渉外費	800,000	536,470	▲ 263,530	旅費316千円、会費110千円、日当110千円 (22日×5千円/日)
卒業記念品	300,000	323,680	23,680	卒業証書ファイル313冊×1040円
事務負担金	900,000	800,000	▲ 100,000	PTA書記給与負担金
ホームページ運営費	190,000	182,600	▲ 7,400	
鶴翔会館空調費	190,000	192,260	2,260	ガス支払料金、R7予定のメンテナンス
支払手数料	500,000	272,420	▲ 227,580	維持会費・寄付金振替手数料
雑費	500,000	591,980	91,980	新聞広告44千円、ホームページ新規150千円、PC引越し384千円
予備費	8,100,000	0	▲ 8,100,000	
合計	17,900,000	9,978,877	▲ 7,921,123	

[収入] 17,080,490円 - [支出] 9,978,877円 = 7,101,613円 (次年度への繰越)

学校支援特別会計

令和6年4月5日～令和7年3月31日 (単位:円)

収入の部	本年度予算額	本年度決算額	比較増減	備考
鶴翔同窓会より繰越金	5,517,231	5,517,231	0	
寄託金	182,700	200,475	17,775	卒業生より新会員の受験対策支援目的
雑収入	69	1,952	1,883	預金利子等
合計	5,700,000	5,719,658	19,658	
支出の部	本年度予算額	本年度決算額	比較増減	備考
激励活動費	150,000	148,186	▲ 1,814	新会員の受験対策支援 (仙台・東京・京都方面)
整備活動費	100,000	0	▲ 100,000	設備、物品等
在校生助成費	300,000	374,150	74,150	在校生の支援
予備費	5,150,000	72,736	▲ 5,077,264	前期PTAより錯誤金を戻し
合計	5,700,000	595,072	▲ 5,104,928	

[収入] 5,719,658円 - [支出] 595,072円 = 5,124,586円 (次年度への繰越)

令和7年度 役員・事務局名簿

会長	齋藤正志 (南S44)			
副会長	田中芳昭 (南S46)	滝川義朗 (南S51)	渋谷せつ (北S51)	坂尾 聡 (南S55)
〃	渡會俊仁 (南S57)	兼子由香 (北S58)	木戸 祐 (北S58)	
副会長・校長	齋藤祐一 (南S60)			
会計監事	齋藤 匡 (南S63)	太田貴士 (南H3)		
事務局長	佐藤 守 (南S51)			
事務局次長	田澤妙子 (北S46)			
事務局員	菅原ゆり (南S51)	長谷川夕香 (北S58)	北風秀明 (南H2)	田中加奈子 (北H6)
〃	本間康弘 (南H9)	本間みや子		

黒沢眼科医院 島眼科医院 島内科クリニック

理事長 黒澤明充 黒澤久子 (南S46) 荒木陽子 (南S50)
池田千花 (南H15) 黒澤芽衣 (南H20) 齋藤聡子 (北S61)
本間 幸 (北H1) 小川早苗 (北H1) 亀井有香 (北H15)
岩浪奈実 (北H17) 山田彩那 (南H28) 相馬なるみ (北R3)

株式会社 浅賀建設

代表取締役社長
浅賀大輝 (南H13)

山形県鶴岡市大平田字宮田 7-1 TEL:0235-22-6219 FAX:0235-22-6242



令和7年度 致道館高等学校同窓会 事業計画

理 事 会	5/1 資料配信 → 5/12 賛否受信
役 員 会	4/25 第1回、10/31 第2回、R8.3/13 第3回
総会・親睦会（毎年7月第一土曜日）	7/5 第1回：グランドエル・サン
同窓会報「第2号」	11/1 発行 約10,000部
令和7年度事業実行委員会 （親睦会部会・会報部会）	準備会 R6.11/20 第1回 2/12 第2回 6/25 親睦会部会 5/21・会報部会は随時開催
致道館高等学校 入学式	4/8 入学生 276名
致道館高等学校 卒業式	3/1

令和7年度 致道館高等学校同窓会 予算

一般会計 令和7年4月1日～令和8年3月31日 （単位：円）

収 入 の 部	前年度予算額	本年度予算額	比較増減	備 考
繰 越 金	9,886,107	7,101,613	▲ 2,784,494	
入 会 金	1,500,000	1,520,000	20,000	@5,000円×304名 （R8.3卒業生）
維 持 会 費	4,500,000	3,360,000	▲ 1,140,000	@3,000円×1,120件 （前年の90%）
寄 付 金	1,500,000	1,070,000	▲ 430,000	230件 （前年の90%）
会 報 広 告 料	300,000	352,000	52,000	16件22,000円
雑 収 入	213,893	176,387	▲ 37,506	エアコンPTA使用料、会員名簿売却代 他
合 計	17,900,000	13,580,000	▲ 4,320,000	
支 出 の 部	前年度予算額	本年度予算額	比較増減	備 考
会 議 費	150,000	150,000	0	役員会・事務局会
需 用 費	200,000	200,000	0	通信費用、消耗品等
親 睦 会 事 業 費	350,000	450,000	100,000	告知130千円、各期補助40千円、総会資料10千円、持出し270千円
会 報 印 刷 発 行 費	5,720,000	2,520,000	▲ 3,200,000	10,000部（鶴岡印刷2,170千円、サラト350千円）
各 地 同 窓 会 渉 外 費	800,000	540,000	▲ 260,000	旅費320千円、会費110千円、日当110千円（22日×5千円/日）
卒 業 記 念 品	300,000	320,000	20,000	卒業証書ファイル310冊×1040円
事 務 負 担 金	900,000	700,000	▲ 200,000	PTA書記給与負担金（負担割 4/12月）
ホ ー ム ペ ー ジ 運 営 費	190,000	190,000	0	
鶴 翔 会 館 空 調 費	190,000	390,000	200,000	ガス支払料金190千円、エアコンメンテナンス200千円（PTAと折半）
支 払 手 数 料	500,000	250,000	▲ 250,000	維持会費・寄付金振替手数料
雑 費	500,000	70,000	▲ 430,000	新聞広告（高校総体・新人戦）44千円 他
予 備 費	8,100,000	7,800,000	▲ 300,000	次年度繰越予定額
合 計	17,900,000	13,580,000	▲ 4,320,000	

学校支援特別会計 令和7年4月1日～令和8年3月31日 （単位：円）

収 入 の 部	前年度予算額	本年度予算額	比較増減	備 考
繰 越 金	5,517,231	5,124,586	▲ 392,645	
寄 託 金	182,700	200,000	17,300	卒業生より
雑 収 入	69	1,414	1,345	預金利子等
合 計	5,700,000	5,326,000	▲ 374,000	
支 出 の 部	前年度予算額	本年度予算額	比較増減	備 考
激 励 活 動 費	150,000	150,000	0	新会員の受験対策支援（仙台・東京・京都方面）
整 備 活 動 費	100,000	0	▲ 100,000	R7決算後削除（設備物品等）
在 校 生 助 成 費	300,000	380,000	80,000	在校生の支援
予 備 費	5,150,000	4,796,000	▲ 354,000	次年度繰越予定額
合 計	5,700,000	5,326,000	▲ 374,000	

令和7年度 第2回 致道館高等学校同窓会 実行委員会

実行委員長 高橋修也（南S61）
副実行委員長 五十嵐和美（北S61） 松本晃一（南H8） 松山玲子（北H8）

〈親睦部会〉		〈会報部会〉	
部会長	岡部貞二（南S61）	部会長	松田香織（北S61）
	高橋修也（南S61）		成澤素直（南S61）
	阿部浩一（南S61）		松山玲子（北H8）
	富樫恵子（北S61）		
	松本晃一（南H8）		
	伊藤直樹（南H8）		
	保坂吉彦（南S61）		
	五十嵐和美（北S61）		
	五十嵐孝子（北S61）		
	石塚 慶（南H8）		
	岡部由佳（北H8）		

佐藤 S24 渡田 S21 芝田 S20 南倉 S20 南山 S17 全日制 真田 S47 岡田 S44 山本 S43 畑原 S43 菅原 S42 南竹 S39 笹原 S39 結城 S39 中島 S38 齋藤 S38 小松 S36 栗田 S36 南佐藤 S35 川上 S35 丸山 S34 九野 S33 鶴見 S33 吉住 S31 南山 S30 定時制 遠藤 S30 南村 S29 門田 S19 南早坂 S11 富江 S11 南伊藤 S6 南佐藤 S2

憲俊 俊光 幸克 慎一 つね子 正孝 嗣啓 稲光 信勝 一貞 信勝 彰 貴 一 吾 由 一 伸 陽 陽

富士田 白石 椎佐 佐佐 笹岩 市阿 秋青 南宗 成富 鈴菅 佐斎 柏榎 伊南 山西 佐佐 小野 小大 青南 皆増 平早 長杉 齋高 河柏 井阿 南山 松本 南三 佐
檜田 村幡 村名 藤藤 藤藤 原田 川部 場柳 29 片澤 田木 藤藤 倉木 藤 28 田 藤藤 藤寺 倉滝 麻 27 川田 田川 濱本 藤力 口谷 上部 部 26 濱本 原 25 浦藤
裕栄 順定 恒彦 啓慶 謹隆 清雅 幾 邦富 ゆ佑 晴文 良傳 和 正本 成美 つ哲 英幸 式恒 自皓 幸英 良忠 敏孝 桂 恒 信
孝治 功子 子義 市杜 輔子 二子 治子 郎修 義雄 弘き 介子 夫次 司新 子秀 子郎 生喜 ね郎 弘 明子 子子 明一 啓朗 節男 子忠 志 一 敏一 祺雄

鈴木 河小 岡岡 魚池 南羽 成長 富高 高鈴 菅佐 大伊 板生 五南 山星 原長 富富 辻長 高瀬 鈴鈴 佐佐 佐佐 齋金 風小 太伊 市石 南渡 村三 松本 星松 長西
木潤 井寺 部部 住田 32 田澤 浜檜 橋橋 橋木 原藤 井藤 垣田 風 31 田川 川塚 樫 南橋 尾木 木藤 藤藤 藤津 間寺 田藤 川垣 30 邊田 浦田 間野 岡川 海
啓清 弘鉄 昌真 欣和 弘昭 勝正文 誠淳 善直 只 和光 玄太 省行 恒清 玲信 新 豊良 宗勝 重誠 藤 成博 郁玲 純正 榮ゆ 隼
五志 勉子 郎保 也祥 晃哉 明松 光男 男朝 泰助 子博 司志 登夫 正清 郎 薫三 雄進 雄雄 清子 安進 市智 文造 昭美 夫祐 子 孝芳 也子 子紘 子子 雄

大伊 石五 南和 吉村 三三 本星 藤芳 西中 中忠 白佐 佐佐 齋齋 國木 岸柏 加押 大大 上石 阿阿 南渡 渡結 宮鈴 佐佐 佐齋 齋今 小小 大大 南渡 鍵細 日早
江藤 黒嵐 35 田宮 田矢 井間 野田 賀方 村村 鉢幡 藤藤 藤藤 井村 井谷 山切 山川 野黒 毛部 34 会部 城河 木藤 藤井 藤藤 野原 北測 川 33 部水 谷向 川
秀郁 慶志 善 正照 文 充 陸理 喜 喜洋 邦龍 成 輝宏 宏英 隆昭 駿政 正 要辰 格 富武 政具 隆英 辰雅 宜伸 常浩
治夫 一郎 二 徹良 士代 祐勤 宏卓 哉郎 彦元 昭司 彦三 作巖 夫嗣 樹樹 士夫 次紀 勝肇 雄郎 弥明 子肇 彦隆 晃厚 爾子 隆治 夫六 弘 功子 子浩 市

本伴 成長 武相 佐小 工小 大遠 石南 渡吉 三本 本東 芳芳 奈田 冠加 沖大 上井 阿阿 阿南 若吉 三星 船原 富高 砂真 佐櫻 齋齋 齋齋 近神 金柏 小興 岡大
間 田松 田馬 藤林 藤木 川藤 黒 37 部光 井間 多野 賀賀 野口 木山 津井 野上 部部 達 36 松田 浦川 岡野 檜井 田田 藤井 藤藤 藤藤 藤藤 林子 谷寺 津田 沼
雄八 宏二 清志 晴雅 文皓 修征 光 正 良 敦捷 玲史 洋俊 俊 浩修 喜伸 文旌 繁 則邦 圭好 久興 伸 榮淳 順
正次 郎隆 郎輝 郎夫 子子 司武子 洋子 薫士 悟彰 肇純 治信 子三 律篤 子雄 子二 治 夫平 男子 彌子 矢實 雄夫 三和 勝樹 哉吾 進真 一二 凡稔 宏耳

黒加 大魚 岩伊 伊石 石石 五安 相南 堀成長 高菅 小小 五阿 秋南 丸堀 廣中 中中 中土 菅菅 菅菅 庄椎 佐佐 佐佐 寒齋 齋齋 小後 上甲 太南 渡森 松本
羽根 藤館 住城 藤藤 原崎 川風 部達 澤 40 瀬堀 宮 池川 風部 場 39 山井 田村 野野 井原 原原 野司 名藤 藤藤 藤木 江藤 藤林 藤林 斐田 野 38 辺田 田間
洋徹 敬芳 清忠 賢 庄俊 静信 修重 隆廣 朝 秀泰 幸 良祐 善幸 不捷 征直 通 信 和弘 朋梯 洋孝 淑健 啓広 勝司 正 房良 敏
司三 一郎 一良 司融 子正 江矢 一夫 邦子 也宏 二弘 男功 一三 鎮道 記功 男夫 郎香 敬司 一誠 子明 子治 勇雄 允人 吾二 喜治 美郎 昭 子 治爵 英

坂坂 斎齊 今工 木木 川池 秋青 青南 渡渡 三丸 本橋 西新 難成 成中 中永 田橋 高須 須鈴 菅佐 佐佐 後窪 大上 井伊 五南 阿本 土伊 高菅 佐酒 齊小小
本本 藤藤 藤藤 淵戸 上田野 島木 42 部部 矢山 間本 山村 波沢 澤村 井井 畑 橋嶋 田田 木原 藤藤 藤藤 井沼 野上 藤嵐 部 41 間田 達橋 原藤 井藤 林林
敬美 安儀 由美 徳 時 藤郁 千俊 道紀 道義 正正 憲伊 一 勝 和 京泰 和か 敏康 ま 由義 久恒 忠輝 経佐
誠一代 敬信 雄美 子隆 博裕 子博 雄子 子男 均曉 雄子 子明 幸彦 隆雄 子仁 晃平 裕夫 準子 彦巖 彌弘 子涉 郎子 子丕 明 實久 子昭 滋雄 久峰 明子

阿秋 南吉 吉山 山森 村九 平伴 播野 難難 成鈴 進庄 塩塩 澤佐 佐齊 北加 岡大 伊石 荒荒 阿秋 南渡 宮丸 松富 富田 竹舌 須鈴 新真 佐佐 佐佐 佐指 佐佐
部野 44 成川 本田 田田 川 本沢 波波 沢木 藤司 野貝 川藤 藤藤 藤藤 部澤 藤向 田川 部保 43 部原 山山 檜樫 澤島 津田 木宮 田藤 藤藤 藤藤 藤田 木間
和正 甲正 益義 俊久 孝秀 和裕 幸富 美修 敏俊 厚菊 孝勤 正隆 次繁 末 賢節 勝信 真由 俊順 藤博 一茂 孝 秀 慎恵 重篤 修
博造 子一生 昇直 忠明 紀子 子隆 雄夫 子理 仁明 和子 雄宣 二幸 春介 樹雄 志隆 二子 正良 彦弘 郎美 二子 明樹 良樹 純進 充子 孝一 一 潔郎 夫一

ご寄付、維持会費の納入ありがとうございました。



株式会社 東邦設計コンサル
代表取締役 佐藤 守 (南S51)

〒997-0051 山形県鶴岡市荒井京田字荒田263-20
TEL 0235-25-0302 FAX 0235-25-0964
Email: toho@lily.ocn.ne.jp

鶴岡ガス株式会社

代表取締役社長
笹原 泰 (南H1)

山形県鶴岡市鳥居町15-22 TEL 0235-25-0011 FAX 0235-25-0010



一級建築士事務所

建築計画/構造計画/耐震診断・耐震補強/
システム建築/コンテナ建築/その他構造解析/

（有）安島建築構造設計事務所

JSCA建築構造士
構造設計一級建築士
一級建築士

取締役社長 藪田 充彦 (南H10)

〒998-0031 山形県酒田市浜田2-6-1
Tel 0234-26-2234
Mail yasujima@smile.ocn.ne.jp



株式会社 トキワ屋

代表取締役 松田 一枝 (北S36)
取締役 松田 香織 (北S61)
取締役 松田 博美 (南H1)

〒997-0034 山形県鶴岡市本町1-7-48 TEL:0235-22-0432

渡吉山森三本堀早野布中戸高杉菅菅酒斎斎門加大梅犬伊磯石石五阿蘆南渡山保安三三藤藤坂難成富滝関鈴佐小加大遠漆井石阿阿
辺田田 浦間 坂山川村屋橋山原原井藤藤脇藤瀧津塚藤部橋黒嵐部野45部本多田浦浦本崎東波澤樫口 木藤林藤木藤山上橋部部
眞芳雅博與誠 四秀久 広 誠邦雄 道英光準 俊 政 俊由吉 長り由 由幸典言清 一重博ひ良眞紀明政 美京 正幸
史子明子一司誠郎男子良実俊志等二興太隆雄喜信士貴昭篤士豊明子和 和子子篤子雄行行一伸男郎志子春一雄夫春隆行子学和助

蛸菅進佐佐坂斎小上加長榎梅今伊石秋南本廣墨進佐佐木北井五十南森森百九本本畑寺田鈴佐佐斎斎小小黒工神大魚伊伊五十南
井原原藤藤藤田藤松林藤田本津井藤川庭48間田井藤司藤藤村風上嵐野47野田瀬山間問山島中木藤藤藤藤松林澤藤林川住住藤藤嵐46
忠良正眞信 俊一紀京正俊新充 美俊一 信 大健清 芳由紀 千 麗修清 光源裕久芳 哲 英建好久秀忠英三政る紀重
夫和明弥茂茂次之子子雄彦也幸妙子志生 立吾豊輔一雄彰智春子勉鶴 子一昭章俊一子明昭孝爾進豊男男雄子敏夫一子弘み子光

五足南三松牧野中富鈴菅佐佐斎大大犬泉秋南我橋中鈴白柳斎斎小奥大大上伊伊伊五十南村三松本中富高菅佐乙奥大石南三布土土
十風達52浦浦 川村塚木原藤藤藤藤戸賀塚谷保51妻本本木岩原藤藤藤池山滝滝野藤藤嵐50上木森間村樫橋井藤幡山木川49浦川岐岐
祐 克正静観 郁裕ゆ 雅康圭伸幸 充 寿政 有真賢宏完一 多聡与 圭三 詠美 秀淑恒順敏利俊佳康 真秀
晋司 典樹雄清貴夫美り守子一一一子博伸也 一之茂吾彦一之治志央満一津郎一博二也 子樹昌悟明子晴朗輝明彰子博 勉毅澄昭

中富佐坂斎小尾石相南百三平原富士蛸田菅佐斎小川小大五十南福仁富菅清清佐佐河加葛小大池五阿南大宮三匹新成成長富鈴菅佐岩五十
西樫藤尾藤松形渡沢55瀬浦賀田樫田井口原藤藤関崎寺川嵐54原平樫原水水藤藤口藤西田泉田嵐部53和村木田田田田坂樫木原藤本嵐
英 幸圭久政 克正稲 道浩 正 葉靖 聖一 南則一 孝和友 昭光智 順 匡新美久栄 嘉良二芳 敬
徹亮樹聡修樹郎子男 浩登子浩明和弘学喜健聡子子寿子明 子行幸律子則則功俊保子郁正督子亘 輔一智雄二弘伸徹美清男広洋郎

阿南鷺三松松佐佐佐木阿南花谷成高砂斎工草尾大今池阿相南脇高佐佐酒小兼奥大大太大石南渡宮鍋土鈴菅斎北柏大石南渡迎本本成
曾60田井木見藤藤藤村部59光川澤橋田藤藤島形平井田部沢58山坂藤木井松子泉沼竹田泉川57辺崎島岐木原藤村谷津川56部田間田田
智 和め正博わ進佐勝淳 玲吉和克修昭辰 昌 竜由恵こづ 信主春 慎久靖紀 和 慎 洋 美養 多幸る 由 恵 亮
也 男み重か也美義二 子祥則志一子之学彦健一喜子え 拓司悦人滋牧郎人司恵弘弘浩 敦哲美肇香厚亨裕子造子 子健美裕子

野高相佐上伊荒阿足秋南村村鈴笹五十南中佐佐大大遠伊五十会南毛本松藤佐後大大井南野辻高鈴淡笹小工南吉山村中白斎斎岡薄石石五十
田越馬木林藤沢部立山2山井木原嵐1村藤木川泉藤藤嵐田63呂間戸田藤藤島島上62口 橋木谷原林藤61住口田島旗藤藤部衣川川嵐
精 律一昌正修直尚 弘 一 美 淑ゆ仁由 広 あ賢利美 英信 友 啓正修吉 奈明義 幸尚浩 祐一恵美秀 雅
頭英大子志史敏一紀志 聡幸勉泰憲 保洋江子晴子敦樹健 めみ治明鈴聡実一香美 介人也也洋津子則 勝一志子健一志美帆晴敦紀

佐黒大石荒南本半佐上南野野亀南相佐後黒葛菊上梅伊石南富佐大出池南脇皆難進佐佐伊五十五十南藤西相佐小南古清佐小南山森村日正
藤根滝黒木10間澤藤野9尻石灰8馬藤藤田岡地林津藤井7樫藤瀧路田6 川波藤藤藤藤嵐嵐5野山馬藤池4野野藤野3本 上向田
修朋理 康 康久琢博 善高か 美清真信良善千英 智 知将 邦 浩 あ英智晃由 雄 仁 伸た英栄 節裕順大幸
郎子史慎博 弘之磨行 之行な 穂輔琴子二彰夏幸温弘 貴志義徳恭 子治優ね成一子里満 健一忍亘史 典え彦一 子之昭吾樹

本南板南富田黒五南佐後柏阿南佐佐小河小榎南黒加五十南大南森森東佐後門鏡遠南佐工南水丸庄南富久伊石南真廣難南渡薮矢丸鹿佐
間22倉21樫村澤嵐20藤藤谷部19藤藤松田田本18澤藤嵐17川16 林藤藤脇 見15藤藤14野山司13樫下藤橋12島原波11部田口山戸藤
由 宇勇芽 優淳も 龍明一直 昌 史嵩巳玲 雅 洋俊 由 史雄野 隆多 博勝 一 遼 佑 洋 充 俊直
理 稜 晴平衣紫 人も徹 勲彦磨樹遼文 門之一 人 輔輔研久健絃一光 三寿 恵幸己 仁道裕大 介司史 覚彦豊晴子旬

毛松正長谷南富佐小南正工南岩南小石阿南毛三梅薄南小石南大関南薄上南本佐斎工伊南大樋南富加南渡松
ご寄付、維持会費の納入 呂浦田川6樫木池5田藤4城2松川曾31呂浦津衣30松田29和 28衣野27間藤藤藤藤26和口25樫藤24辺浦
ありがとうございました。 咲 さら 永 謙 裕 夏 朋 日 媛 朱 眞 陽 陽 文 健 健 元 貴 光 壮 裕 真 早
里 翼 里 人 奈 悟 明 海 慈 希 里 賢 南 里 子 光 慧 郎 香 翔 星 諒 艦 寛 将 文 明 司 亮 弥 周 樹 美 季



スマホ・パソコン・各アプリよりどこでも維持会費の
納入ができます。

致道館高等学校同窓会

検索

卒年に 友の名みつけ なつかしむ
ここは同期の 通信欄

広告募集

同窓会報への広告掲載について
本会では、運営の安定化と恒常的な母校への支援を図るため、同窓
会報に『広告』の掲載を行っております。
※同窓会ホームページにもバナー広告として掲載します。
広 告 料：22,000 円 (税込)
掲載規格：90×30mm・モノクロ ※バナー広告はカラー、リンク可
※詳細は、致道館高等学校同窓会事務局へご連絡ください。

東北屈指のシーサイドコース
湯の浜カントリークラブ



理事長 上野雅史 (南S51)
庄内ゴルフ株式会社
代表取締役社長兼総支配人
泉谷 伸 (南S51)
◀名物11番ホール。日本海に向かって豪快な打ち下ろし。▶

鶴岡市下川字龍花崎 20-10 TEL: 0235-75-2044 FAX: 0235-75-3012 https://yunohama-cc.jp

山形県立致道館高等学校
令和7年 第2回 同窓会親

致道館高等学校同窓会

第2回総会・親睦会



令和7年7月5日(土)

総会 15:00 / 親睦会 16:00 グランド エル・サン

編集後記

致道館高等学校同窓会報も第二号となりました。第一号の「繋ぐ」というバトンを受け取り、我々は走り出しました。七月五日に行われた総会・親睦会において印象に残ったのは校歌対決でしょうか。北チームはピアノの生演奏に合わせ「光あり古城のほとり」と若々しく気品溢れとした歌声が響きわたりました。南チームは「山河の姿うるはしく」と山田耕作曲、南高OB 故真島俊夫氏の編曲の素晴らしさとおじ様達の気合の入った合唱でした。致道館は「古城を仰ぐ水壕の傍」と我々六十一一年卒が誇る直木賞作家、佐藤賢一氏の作詞でございます。昭和二十五年に高等学校再編成が行われ、鶴岡高等学校の南校舎北校舎となった時代を経て、再び統合されるというミステリアス。人と人との繋がり、繋がりによる、また新しい歴史が刻まれていくと考えることができれば道理が良いのかも知れません。皆様もどうぞ一年に一度の総会・親睦会に御出席下さいますようお願い申し上げます。人と人のめぐり合わせ、繋がれていく縁。もしかしたら、なつかしい初恋のあの人に再会できるかも知れませんよ♡

松田香織

会報部会

部長 松田 香織
成澤 素直
松山 玲子
菅原 ゆり
北風 秀明
本間 康弘
田中 加奈子